

研究構想シート	学校名	津和野町立津和野小学校
	氏名	岩田 らん
A 研究主題 自他を大切にし 共に学び きたえようとする子どもの育成 ～能力ベースの授業づくりを中心として～		
B 研究の目的 学習指導要領に示された能力ベースの授業に取り組むことによって、教員自身の授業改善をはかり、子どもが見方・考え方を働かせ社会で生かすことのできる資質・能力を身に付けること。		
<p>C 子どもの実態</p> <p>全国学力調査において、本校で算数の躓きが多かった問題は、「図形を構成する要素などに注目して、基本図形の面積の求め方を見出すとともに、簡潔かつ的確な表現で公式に導く」ことをねらったものであった。この問題では、図形の構成要素に着目して、図形の性質や公式の意味を理解することが解決に必要な力であった。</p> <p>図形の構成要素に着目するとは、例えば三角形の面積を考える時には、底辺と高さがどこにあるかに着目することである。三角形の面積を求める「底辺×高さ÷2＝面積」と覚えている児童も、図形の中で三角形の高さがどこにあたるのか悩む児童もいた。</p> <p>また、公式を利用して面積の計算ができていても、底辺と高さが等しい三角形は面積が等しい、という意味の理解につながっていないことがわかった。</p> <p>以上のことから、本校の児童に算数の学習で数学的な見方・考え方を働かせて日常生活の事象や数・図形を捉える力を育成することが必要であるといえる。また、学びを定着させ、問題解決に活用できる知識を得るためには、子どもたちが主体的・対話的に学びを進めていく授業づくりが必要であるといえる。</p>	<p>E 手立て・内容（研究仮説）</p> <p>特に算数において、校内研究を進めていく。日常生活等での問題解決に生きて働く数学的な資質・能力を育成するためには、子ども自身が、数学的な見方・考え方を働かせて数学的活動に取り組むことが必要である。</p> <p>そのために、教員は知識や技能を教えるだけでなく、児童が問題解決の方法を活動の中で発見し意味的理解ができるよう授業をつくっていくことが重要である。さらに、数学的活動の中で、児童が物事を数学的に捉えたり自分自身の考え方を振り返ったりすることによって問題解決の過程を身に付けていくことができるように授業をつくっていくことが重要である。このような授業を単元を通して行うことで、子どもの資質・能力を育成することにつながる。</p>	<p>D めざす子どもの姿</p> <p>○数学的な見方・考え方を働かせて算数の問題解決に取り組む児童 …日常事象のどこに目を向けるべきかという数学的な着目点やどのように問題を解決をしていくのかという見通しを持てる児童</p> <p>○数学的活動を通して主体的・対話的に考える児童 …単に問題を解決するのみならず、問題解決の過程をふりかえって得られた結果をこれまでの学習とまとめられることはないかと統合したり、新たな問題を見出して発展的に考えたりする児童</p>
	<p>F 検証方法</p> <p>児童の数学的に考える資質・能力を育成するため、学習指導要領算数の目標である「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通し」た授業づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業づくり…児童の育成する資質・能力を明確にする。</li> <li>・研究授業…児童が学びの中でどのような見方・考え方を働かせ、数学的活動をしているのかを見とる。</li> <li>・研究協議…児童の姿を通して、児童にどのような資質・能力がついたのか、それは、教員のどのような指導・支援によって育成されたのかを協議する。</li> </ul> <p>以上の3点を通して、児童の数学的に考える資質・能力の育成をはかる。</p>	
	<p>G 研究計画</p> <p>学期に1回の研究授業を行う。</p> <p>研究授業を行う際には以下の点に配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業構想や指導案作成等の授業づくり、授業公開や研究協議等の研究授業に教員全員で参加し、教員各個人の日頃の授業改善につながるようにすること。</li> <li>・授業づくりでは、単元で身に付ける資質・能力が何かを学習指導要領にそって考えること。</li> <li>・研究授業・研究協議では、教師の働きかけに目を向けるのではなく、児童の学び姿を通して、資質・能力が育成されているかを見とること。</li> </ul>	